

タイトル!! ゴージャスお宝鑑定家

「うゝん、ゴージャス！」25

登場人物

- ・ 剛田（ごうだ）… 剛田質店の店主。ゴージャスな品物しか興味がなく、全ての言動が大げさで優雅。
- ・ 白金（しろがね）… 剛田質店の見習い鑑定士。常識人で、剛田のクセの強さに日々振り回される。
- ・ 山野（やまの）… ダンベルを持ち込んだ客。筋トレ愛好家。
- ・ 常連客・鈴木… 剛田質店の常連客。高級時計コレクターで、剛田に影響されて少しクセがある。

シーン1: 剛田質店の朝

（剛田質店の店内。壁には煌びやかな額縁や豪華なシャンデリアが飾られ、明らかに、質店らしくらぬ豪華さ。剛田はソファに優雅に座り、紅茶を飲んでいる）

剛田（紅茶を一口飲み、深いため息をつきながら）「はあ、この香り、まさしくゴージャス！ 品格ある朝には品格ある紅茶が欠かせない。これぞ『ゴージャスたるもの優雅たれ』というものだ。」

白金（カウンターの奥で書類整理をしている）「店主、その『ゴージャス』の基準、未だに分からないんですが。普通の質店ならもつと実用的な品物が持ち込まれると思うんですけど。」

剛田（指を立て、目を閉じる）「白金くん、それがゴージャスであるかどうかは、この剛田の目と心が決めるのだよ。」

白金「いや、心で決めるのはいかがでしょうかと……。」

（そこへ、筋肉ムキムキの山野が大きな包みを抱えて入ってくる）

山野 「すみません！こちら、鑑定お願いしたいんです！」

白金（振り返り） 「あ、いらっしやいませ！

……つて、それ、何ですか？」

山野 「これです！」

（包みを開けると、中にはキラキラと輝く巨大な水晶製のダンベルが現れる）

剛田（目を見開き、立ち上がる） 「……………」
これは……………！」

白金（驚きながら） 「水晶製の…………ダンベル？」

剛田（ダンベルに近づき、じっくりと眺める）

「うーん、ゴージャス……！」

白金（呆れ顔）「いやいや、確かに光ってますけど、「これってどうなんですか？」」

山野（胸を張って）「これ、完全オーダーメイドで作ったんです！ジムのトロフィーとして飾る予定だったんですけど、思った以上に高価になっちゃって……。だから売ろうと思って！」

剛田（手を顎に当て、深く考える）「水晶……それも「OK」。しかも、このカッティングの美しさ！一流の工芸家が手掛けたに違いな。これこそゴージャスの極みではないか！」

白金「いや、ただの筋トレ器具ですよ。鑑定とか必要なんですか？」

剛田（急に真剣な表情で）「白金くん、君はまだまだ分かっていない。ゴージャスなものには、それが何であれ魂が宿るのだよ！」

白金「魂とか持ち出されても……。」「

（山野の背景が語られる）

山野（少し恥ずかしそうに）「実は、僕、もともとプロボディビルダーだったんです。でも、大会でなかなか勝てなくて、自分を奮い立たせるためにこのダンベルを作ったんです。これで成功するぞって！」

剛田（感動して）「うーん、ゴージャス！君の決意、その熱意！このダンベルに込められた思いこそ、ゴージャスそのものだ！」

白金（小声で）「店主、話の半分聞いてます？」

（山野の過去のフラッシュバック。大会での敗北、挫折、そして再起を誓う姿が描かれる）

シーン2：鑑定開始

（剛田は店内の特製鑑定台にダンベルを置き、周囲をくるくると回りながら鑑定を始める）

剛田（うっとり）「見よ、この輝き！光を反射する面の一つ一つが、まるで宝石のようではないか！」

白金「いや、だからこれダンベルですよ。使い道が……。」

剛田（白金を遮るように）「使い道など些細な問題だ。ゴージャスとは存在そのものに価値があるのだよ！」

山野「ですよね！僕もそう思って、これを作ったんです！」

剛田（突然、真面目な顔で）「ちなみに、君、このダンベルの石言葉は知っているかね？」

山野「石言葉？」

剛田（得意げに）「水晶の石言葉は『純粹』『調和』『癒し』だ。つまり、君がこれを使って

トレーニングすれば、肉体と心のバランスが完璧になるというわけだ。」

白金 「いや、ただの迷信ですよねそれ。」

（剛田がダンベルを持ち上げ、実際にトレーニングを始める）

剛田（息を切らしながら）「ふぬっ……これが……ゴージャスな重み……！」

白金（引き気味で）「店主、それ以上やると……。」

剛田（輝く汗を流しながら）「まだだ……ゴージャスたるもの……限界を知らないのだ！」

（剛田、ついにバテバテになり、床にへたり込む）

剛田 「ふう……これぞ……究極のゴージャストレーニングだ。」

白金（呆れて）「だから何なんですかそれ……。」

シーン③：鈴木又来訪

（鈴木が豪華な時計を持ち込んでくる）

鈴木 「剛田さん、今日はこの時計を見てほしいんです！限定品でね、ゴージャスな逸品ですよ！」

剛田（目を輝かせて）「うーん、ゴージャス！素晴らしい、鈴木さん！」

白金 「また来た……店主、これどうするんですか？」

剛田 「鈴木さん、少しお待ちを。山野さんのダンベルの鑑定が終わったらすぐに見よう。」

鈴木 「いやいや、山野さん、これすごいですね！持ち上げてみていいですか？」

（鈴木がダンベルを試して驚き、軽い対決になる）

山野 「どうです、鈴木さん！筋肉が叫ぶでしようー！」

剛田 「それでは、私も参戦だ！」

（三人でトレーニングを始めるも、剛田が再びバテて終了）

シーン④：査定額の発表

（剛田はダンベルを元の場所に戻し、深呼吸をする）

剛田 「さて、山野さん。「このダンベル……我が剛田質店としては、20万円で購入取らせていただこう。」

山野（目を輝かせて）「マジですか！？ありがとうございますー！」

白金（驚いて）「ちょっと待ってください！20万円もするんですか、これ！？」

剛田（堂々と）「白金くん、ゴージャスなものには値段をつけるのではなく、その価値に見合う金額を出すのだよ。」

白金「……いや、ますます分からなくなってきました。」

（山野はダンベルを置いて満足そうに帰っていく）

剛田（ダンベルを眺めながら）「今日もまた、一つゴージャスな宝物が加わったな。」

白金「でも、これ本当に売れるんですかね……？？」

剛田（笑みを浮かべながら）「売る？いや、これは展示するのだよ。この剛田質店の名誉としてね。」

白金（肩を落として）「はあ、やっぱりそうなるんですね……。」

シーン5：エピソード

（翌日、剛田質店の朝）

剛田（体を押さえながら）「うう……全身が痛い……これもゴージャストレーニングの代償か……。」

白金（苦笑しながら）「店主、筋肉痛になつてる時点で全然ゴージャスじゃないですよ。」

剛田（気丈に）「何を言う！この痛みこそ、昨日のゴージャスさを証明するものだ！」

白金（呆れて）「はいはい、そういうことになっておきますよ。」

（二人のやり取りが続きながら幕が閉じる）

尺割案（目安時間）

シーン1：剛田質店の朝（約12分）

- ・ 店内の豪華な描写（1分）
- ・ 剛田と白金の日常の掛け合い（4分）
- ・ 山野の登場とダンベルの持ち込み（4分）
- ・ 山野の背景とダンベルの紹介（3分）

シーン2：鑑定開始（約15分）

- ・ 剛田の鑑定プロセスの描写（5分）
- ・ 石言葉を熱弁するシーン（3分）
- ・ 剛田が実際にダンベルを使い汗を輝かせるトレーニング（5分）
- ・ 白金と山野のリアクション（2分）

シーン3：鈴木 của 来訪（約12分）

- ・ 鈴木が時計を持ち込み、剛田が反応するシーン（4分）
- ・ 鈴木と山野のトレーニング対決（9分）

- ・ 剛田が再びバテて終わるシーン(2分)

シーン4: 査定額の発表 (約10分)

- ・ 剛田の深い考察から査定額を発表する流れ(5分)
- ・ 山野のリアクションと白金のツッコミ(3分)
- ・ ダンベルを展示することを決めるシーン(2分)

シーン5: エピローグ (約10分)

- ・ 筋肉痛で苦しむ剛田と呆れる白金の掛け合い(9分)
- ・ コメディタッチで店の朝の様子を描写(4分)

その他: 転換・間(約10分)

- ・ シーン間の転換時間や小さなリアクション、間を含む。